

令和4年度

群馬県立高崎女子高等学校 第123回開校記念式

令和4年4月28日(木)に、本校体育館にて第123回開校記念式が挙行されました。新型コロナウイルス対策の一環として、国歌、校歌は演奏を聴く形式となりましたが、同窓会長、PTA会長、教育振興会長をはじめ、ご来賓の方にも参加して頂き、全校生徒と教職員が高女の伝統を振り返り、高女生に対する期待を確認する日となりました。

式典では濱野雅樹校長の式辞の後、海老原洋子同窓会長と梁瀬剛PTA会長の祝辞を頂戴しました。

その後実施された記念講演会では、105期生である落語家の林家つる子さんを講師にお招きし、「好きなことを仕事にする～夢を持つこと～」という演題で講演をしていただきました。ご自分が落語家の道を選ぶまでの過程を、高女時代の失敗談も交えながら魅力的に話され、“人生で無駄なことはない。辛いときもあると思うが、その思いは無駄にならず、その経験が今後生きていく。”“ご縁や出会いは大切にしたい。この先どこでどう繋がるかはわからないし、いろいろなことが繋がって助けてくれる。”“やりたいと思ったことはやって欲しい。運(タイミング)もあるのでときには流れに身を任せてみることも大事。”など先輩からの温かいメッセージが在校生に向けて贈られました。同じ高女生として過ごした先輩の言葉はスーッと心に染みこみ、悩みの解決のヒントになったほか、背中を押す応援の力や抱いていた不安を安心に変える力となりました。

最後に落語「お菊の皿」も披露していただき、好きなことを仕事にすること、そのプロの仕事を実演していただきました。全国で約1000人ほどいる落語家の中でたった60人ほどの女性落語家。女性目線から古典落語を描き直す取り組みにも挑戦しているつる子さんの新たに切り拓いていこうという姿勢に感嘆しました。高女生及び高女関係者全員、つる子さんの今後のご活躍を祈念いたします。

